

新善光寺 寺報 北 縁

2024年10月 Vol. 56

# ほくえん

慈母観音への道

## じゅう や 十夜法要のご案内

十夜法要とは、浄土宗の最も大切な經典の一つ「無量寿経」の中に、  
「此に於て善を修すること十日十夜すれば、  
他方の諸仏国土にして善をなすこと千歳するに勝れたり」  
現代語訳 この世界で十日十夜の間、善行を修めることは、その功德は他の仏の世界で千年にわたって善行を励む功德よりも勝れている。  
とあることに基づく法要です。

11月3日(日) 文化の日

午後1時 法話 → 10分間の小休憩 → 午後2時 法要

(塔婆申込には同封の振替用紙をお使いください)

### 法要に参加してみよう!!



1 まずお寺に入ります。駐車場は手狭なため車が停められないかもしれません。その際は周りの有料駐車場をお使いください。公共交通機関では地下鉄東豊線「豊水すすきの」駅6番出口がすぐです。



2 受付をすませましょう。



3 塔婆を受け取り、水向け供養をします。お坊さんが付いていますのでご安心ください。



4 法話がはじまります。本堂に行きましょう。

5 次は、法要です。少し休憩をして始まります。



法要開始です。

一日限りで宝物の特別展示をします。



※本堂は暖房をつけますが、寒く感じるかもしれませんので、当日は暖かい服装でお越しください。  
見どころの多い仏教に親しむことができる法要です。多くの皆様のお参りをお待ちしております。

北海道第一教区 小樽組  
〈法話〉 願雄寺 住職 吉田成道 上人

講題「念仏の行 水月を感じて、昇降を得たり」

〈プロフィール〉

昭和 53 年 9 月 7 日生まれ。東京都出身  
平成 25 年大阪乗雲寺にて得度。平成 27  
年知恩院にて伝宗伝戒道場成満。令和元  
年、古平にある願雄寺の住職となる。



一年の法要で、一番僧侶が多い法要です。



太鼓でダイナミックに阿弥陀経を唱えます。



法話をじっくりと聞くことができるのも、この法要だけです。

## 五重相伝について⑤

### ご挨拶

平素は当山の護持興隆にご厚誼を賜り、心より感謝申し上げます。

この度「新善光寺開創 150 年記念事業」として、檀信徒の皆様にとって最上の法要行事とされる五重相伝会を開催致します。

五重相伝会とは、檀信徒の皆様が浄土宗の念仏信仰を深めていただく 5 日間に渡り執り行う法要行事です。

「五重相伝会」という法要行事は、皆様には聞き馴染みのない行事と存じます。浄土宗寺院の多い地域では定期的で開催されている行事ですが、北海道では諸般の事情によりなかなか開催することが難しく、当山においても、記録では昭和 28 年と昭和 56 年の過去二度の開催のみとなっております。現代においても開催が難しい行事ではありますが、この混迷の時代に今一度この「五重相伝会」を開催し、お念仏に「であい」、お念仏に「ふれて」いただきたいと深く想念し開催を決断致しました。

開催にあたっての優先事項として、幅広い年齢層の方がご参加できるように、皆様のお体のご負担を軽減し、ご参加しやすい形式を配慮しております。また今回の五重相伝会は、経験豊富な大阪教区のご住職の皆さんにもサポートいただき、よりスムーズな行事進行を行える体制を整えております。

成満（終了）の際には普段のお寺の法要では得られない法悦を感じていただけるものと確信しております。

またとないこの機会に多くの方と共に精進のもと、浄土宗の真髓を味わっていただくべく、皆様のご参加をお願い申し上げます。

合掌

新善光寺 第 6 世住職 太田 眞琴

申し込み方法は同封のご案内をお読みの上、申込書を切り取り、返信用封筒に入れてお送りください。

どうぞたくさんのご参加をお待ちしております。

今回の五重相伝では、<sup>かんかいし</sup>勧誡師と<sup>えこうし</sup>回向師という大事なお役の方が大阪から来られます。

お説教を担当していただく<sup>あしまこうじゆん</sup>勧誡師は菫間弘 淳 上人で、大阪の天王寺区にある称念寺様のご住職です。

京都の浄土宗大本山百万遍知恩寺の布教師会会長と浄土宗大阪教区教化団長もなされている方です。

非常にわかりやすく、優しく丁寧にお話をされ、大阪はもとより各地でこの勸誡師をされている経験豊富な方です。

「現代において多くの場合 宗教は亡くなられた方の供養でしかありませんが、しかし本来は生きておられる方への教えでもあったはずでございます。私たちはあらゆるご恩の中で生かされています。その恩をかみしめることが「おがむ」という事だと考えております。現代の私たちに欠けがちな、眼に見えないものへのありがたさを感じて頂ければ幸いです。(HP より抜粋)」



称念寺様の山門



葎間住職

次にお勤めを担当いただく回向師は清水 秀浩<sup>しみずしゅうこう</sup>上人で、大阪の枚方市にある法楽寺様のご住職です。

京都の浄土宗大本山金戒光明寺の執事をされていて、また法儀司という浄土宗の中でも数えるほどしかいらっしゃらない資格をもたれております。

親しみやすい性格で、わからないことがあれば何でも丁寧にお教えいただけます。

五重相伝の見どころ・聞きどころの一つに回向があります。その時に独特な節回しや旋律で聞いている方も涙を流すことがあります。その回向を経験・体験できるのもこの五重相伝ならではのです。

また、法楽寺様の本堂は極楽浄土を具現化した本堂で、見る者を圧倒させる作りとなっております。



法楽寺様の本堂

## 行事案内

### 〈秋の日帰り寺院巡りバスツアー〉

今回は市内2か所の寺院を参拝しようと思っております。

まずは東区にある東照寺様で、新しいタイプの納骨堂が話題を呼んでいるお寺です。次は中央区にある大宥寺様で、由緒ある曹洞宗のお寺です。

また、お昼は中島公園の近くに新しくできたホテルでのランチビュッフェ、そして中央卸売市場へも足を運ぼうと思っております。

秋の深まる11月に、一緒にお寺参りをしましょう。

お申し込みはお電話にて、10月30日まで受け付けております。(TEL011-511-0262)

11月5日(火) 参加費 5,000円(食事代込み)

#### 旅程

- 9:15 新善光寺集合
- 9:30 出発
- 10:30 東区・東照寺様参拝
- 11:30 コートヤード by マリオットでランチビュッフェ
- 13:30 中央区・大宥寺様参拝
- 14:50 中央卸売市場でお買い物
- 16:00 新善光寺到着・解散



東照寺様



昨年の様子

### 〈仏教体感〉 仏教講座「写経」のお誘い

毎月第4土曜日の午後2時から仏教講座をおこなっております。主に写経を中心しておりますが、心が落ち着く・心が洗われるなどのお声もたくさんいただいております。

静かな空間で心を落ち着かせてお経を写すのは時間に追われている現代において、非常に大事なことはないかと思えます。

お手本を上からなぞりますので、初めての方でも簡単にできるかと思えます。参加費は500円で道具や事前申し込みは不要です。心を落ち着かせにお寺に来てみませんか？



次回は、**10月26日(土) 午後2時**より  
今後の予定 11月23日(土)、12月28日(土)

## 〈除夜の鐘の案内〉 12月31日(火) 23時45分頃より

新善光寺では毎年大みそかに、来られた方と一緒に鐘を撞いております。  
撞いていただいた方には新しい年の絵馬を渡しております。また、近隣の寺院と協力してスタンプラリーも開催予定です。  
新しい年を迎えるにあたり、鐘を撞いて煩惱をはらいましょう。



## 〈今年もイベントをおこないました〉

9月13、14日にお寺を舞台に文化的イベント「鴨々川ノスタルジア」を開催しました。

新善光寺では怪談朗読会、芸者衆の踊りを見る会をおこない、成田山新栄寺様ではお坊さんのファッションショーをおこないました。

今年で10年目となるイベントで、ファッションショーの様子はテレビや新聞でも報じられました。

イベント自体は、ひとまず今回で一区切りとなる見通しです。



## 善光寺と高倉健～目には見えない導き～

今も昔も信州の善光寺は、お参りの人が絶えることはありません。明治以降7年に一度勤まる御開帳では、平成9年の参詣者が500万人、長野新幹線が開通してからは600万人以上のお参りがあります。なぜ人々は善光寺に参るのでしょうか。その信心の世界を今回は少々味わってみたいと思います。

俳優の高倉健さんも善光寺によくお参りされた方です。善光寺信徒会の会報には次のように紹介されています。「高倉健は亡くなる直前まで善光寺の節分会に30回以上も来ていたそうです。初めて訪れたのは昭和33年、『5万円のギャラ（当時の高倉健の映画出演料は2万円）につられて』と本人が言っているそうです。しかし、『それにしても、善光寺に来るとなぜこんなに清々しく、すっきりと気持ちがいいんだろう』と、その後高倉健は毎年節分会に詣でています。高倉健は後に、高倉健の五代前のおばあさま小田宅子（当時53歳）が江戸時代に北九州から歩いて善光寺に来ていたことを知り、『理屈ではなく、祖先の霊とぼくの魂が呼び合っていたのかもしれない、善光寺を通して結ばれていたのだ』とすべてを了解しました」〈令和6年9月発行「法燈」〉。

私自身も善光寺の本堂にお参りすると、如来さまにやさしく抱かれているような不思議な感覚をおぼえます。そして、本堂を出て帰路につく時、「またお会いしますね」と胸のうちで如来さまに声をかけるのです。善光寺如来さまは生身の如来さまといわれますが、まさに如来さまの体温を感じられるのが善光寺だと拝します。

しかしながら、ただ癒しや心地よさを求めるだけで終わらないのが善光寺信仰の醍醐味です。はじめは、単に“有り難いなあ”“清々しいなあ”という居心地のよさでお参りしていても、そこから自身の悲しみや苦しみと対峙し、その悲嘆や苦悩はわが一生において解決なしと決着する…。如来さまの世界であるお浄土に往くことが、人生の最大の目的になった時、我が身に起こる喜びも怒りも哀しみも楽しみもすべて、お浄土までのみちしるべであったとしみじみと受けとれる、これが善光寺参り・善光寺信仰の真骨頂です。その信心の入口は、高倉健さんが言うように目には見えない不思議な縁なのかもしれません…。

〈文：立花 俊輔〉



善光寺門前の高倉健さんが  
かよったそば屋さん



善光寺で回向を  
申し込むといただける証書

## 浄土宗の総・大本山について

### 金戒光明寺 (こんかいこうみょうじ・京都)

京都市左京区にある<sup>こんかいこうみょうじ</sup>金戒光明寺は、通称「<sup>だに</sup>くろ谷」と呼ばれます。法然上人が15歳頃から43歳頃まで過ごされた<sup>くらだにせいりゅうじ</sup>比叡山の<sup>さとぼう</sup>黒谷青龍寺の里坊だったところです。里坊とは、山深くにあるお寺が人里にかまえる別の寺院のことであり、交流の拠点としての機能があります。またの名を「<sup>しろかわ</sup>白河の<sup>ぜんぼう</sup>禅房」といいます。

境内の阿弥陀堂には、<sup>えしんそうず</sup>恵心僧都が生涯で最後に造ったと伝わる<sup>のみおさ</sup>鑿納めの阿弥陀如来さまがおられます。また、墓地の入り口あたりには、俗にアフロヘアーの阿弥陀さまといわれる<sup>ごこうしゆい</sup>五劫思惟のお像がおいでです。

法然上人が<sup>お</sup>比叡山から下りられ、人々に最初に浄土の<sup>みおし</sup>真実の御教えを説かれた場所であるという意味で山門には「浄土真宗最初門」と書かれた後小松天皇の勅額がかかげられています。北東には法然上人が修学された比叡山が望め、南東には法然上人ご往生の<sup>おん</sup>処知恩院を眺めるこの地は、まさにお念仏の元祖法然上人に思いを馳せる絶好の景勝地であると存じます。



のみ納めの阿弥陀さまがおられるお堂



大本山くろ谷の紋



五劫思惟のお像

金戒光明寺 京都市左京区黒谷町 121

## 仏さまのおはなし ⑩

前回までは「如来」さま、つまりお覺りをひらかれた（成仏した）仏さまについてお話ししてきました。

その中でも代表的な四人の如来（仏）さまについてご紹介しましたが、如来さまは実は多数の方がいらっしゃいます。浄土宗所依經典のひとつ「仏説阿彌陀經」の「六方段」（阿彌陀經の後半部分における、連続する六つの章節）では、実に三十七如来（仏）のお名前があがっています。阿彌陀經にはそれどころか「東方・西方・南方・北方・下方・上方の六つの方角に在します如来さまは、ガンジス川の砂の数ほど数限りない程在します」といった記述があります。仏教の世界観では数えきれない如来が存在し、それぞれの如来がそれぞれの仏国土を持っていることが示されています。

今回からは「菩薩」さまについて、その定義を考えながらお話ししていきます。

### ◆菩薩と菩薩行

「菩薩」という仏さまは一体どのような仏さまなのでしょうか。

「菩薩」の原語は「ボーディ・サットヴァ（漢字：菩提薩埵）」と言います。この言葉の意味は「菩提（=覺り）を求める衆生（人々）のこと、また菩提と衆生をともに気にかける存在のこと」と訳されています。

日本の仏教は全て「大乘仏教」と呼ばれる宗派となりますが、仏教の修行者すべてが「菩薩」という事になっています。「大乘」とは他者の救済をめざして自ら仏となることをめざす「偉大な教え」という意味でとらえています。そのため大乘仏教の菩薩は、自身で覺りへ向かう修行を行う一方で、他者の救済活動にはたらくことをめざすこととなります。このことを「自利（自己の修行により得た功德を自分が受ける）・利他（自己の利益のためでなく、他の人々の救済のために尽くす）」といい、菩薩の仏道修行（菩薩行）の方法となります。

ではこの「自利・利他」の修行とは実際にどのような事を指すのでしょうか。

実は皆さんも聞いたことのある修行によって、徳を積む方法があります。

「六波羅蜜」（もしくは「ろっぱらみつ」とも称します）という言葉聞いたことはないでしょうか。この六波羅蜜は「お彼岸」の時によく出てくる言葉です。

◆彼岸を求めるための実践項目

一六波羅蜜

毎年春の「春分の日」、秋の「秋分の日」を中日に前後一週間を「お彼岸」と称します。皆さんご存じの通り、この「お彼岸」は各家でご先祖の供養を行う仏教の行事です。

さてこの「彼岸」という言葉の原語は「パーラミター（訳：到彼岸）」という言葉で、「彼岸（彼の岸）」である西方浄土への往生を願い、浄土に先立ちご先祖へ想いを手向ける意義があります。この「パーラミター」を漢字に音写したものが「波羅蜜」となります。つまり「六波羅蜜」は「六つの波羅蜜」という意味で、「彼岸（浄土）へ到るために行う六つの実践項目」といった意味合いの言葉となります。

六波羅蜜の内容を図1に示します。

お坊さんのお説法で、「皆さん、六波羅蜜の実践項目を是非このお彼岸の時に意識してみましよう」といった話を聞いたことがある方もいらっしゃるでしょう。我々が日頃の生活で努めて行うようにしたい行為は、実は覚りを目指し修行する「菩薩」の修行でもあるということです。

このように大乘仏教では、あらゆる衆生（人々）が「覚り」というやすらぎの境地を求める心を起こせば、「自利・利他」の行を励む菩薩となるという事を説いています。

どうでしょうか。「観音菩薩」や「勢至菩薩」のような、如来さまと同等のようにながめられる菩薩さまもいれば、覚りを求めるものは全て「菩薩」という教えもあります。もし自分が覚りを求めれば、自分は「菩薩」。でも同じ菩薩でも「観音さま」と比べるとずいぶんと差がありますよね。

教義と信仰とはその「言葉だけの意味」を中心に考えると混乱するかもしれませんが、逆に毎日手を合わせている「菩薩さま」がグッと身近に感じることもなるのではないかと感じます。

●六波羅蜜（浄土宗大辞典より）

- |            |           |
|------------|-----------|
| ①布施（ふせ）    | めぐみほどこすこと |
| ②持戒（じかい）   | いましめまもること |
| ③忍辱（にんにく）  | たえしのぶこと   |
| ④精進（しょうじん） | つとめはげむこと  |
| ⑤禪定（ぜんじょう） | しずめたもつこと  |
| ⑥智慧（ちえ）    | さとりめざめること |

図1 六波羅蜜

清璋寺から

9月21日に秋彼岸法要をおこないました。

お参りの方々と共々に今はお浄土におられる大切な方を思い、お念仏をお唱えしました。次回の法要は来年1月3日の修正会並びに新春大祈願法要となっております。

また、新しく追加した納骨堂も好評を得ております。見学は随時受け付けておりますのでお気軽にお問い合わせください。



清璋寺 札幌市手稲区西宮の沢5条1丁目19-35 TEL 011-668-5110

清璋寺は毎週火曜日を寺院閉館日としております。お参りの際は、お寺にお問合せください。

しろいし幼稚園から

## 令和7年度 新入園児募集のご案内

しろいし幼稚園では、来年度の園児募集を行っています。入園を希望される方は幼稚園見学を行っておりますので、下記の連絡先までご連絡ください。

入園願書配布日 令和6年10月15日(火) 11:00～

※願書は募集人数のみの配布となりますが、配布日以降も定員に空きがある場合は随時願書をお渡しいたします。

入園受付日 令和6年11月1日(金)

募集園児	募集人数	対象生年月日
4年保育(2歳児)	20名	令和4年4月2日生～令和5年4月1日生
3年保育(3歳児)	30名	令和3年4月2日生～令和4年4月1日生
2年保育(4歳児)	20名	令和2年4月2日生～令和3年4月1日生
1年保育(5歳児)	10名	平成31年4月2日生～令和2年4月1日生

子どもたちの活動の様子はInstagramでご確認いただけます。



子どもたちの日常の様子を公開しています。ぜひ、チェックしてみてください。フォローもお願いします！

学校法人新善光寺学園 **しろいし幼稚園**

札幌市白石区平和通1丁目南6-16 TEL 011-861-4426

担当：園長 太田・副園長 宿谷(しゅくや)

慈啓会から

## 稲寿園デイサービスセンター

稲寿園デイサービスセンターは、特別養護老人ホーム札幌市稲寿園に併設している定員数 32 名の通所施設です。当デイサービスセンターは、充実した「食」「レクリエーション」「入浴」行事に力を入れています。近年では短時間の運動特化型デイサービスセンターが増えてきていますが、当デイサービスセンターでは運動だけでなく、食事や入浴、そして人とのつながりを大切に、身体、精神ともに健康でいられるようなトータルケアを目指しています。

食事は、人との触れ合い、そして生きる喜びにつながると考えているため、秋の味覚祭にはサンマの炭火焼や焼き鳥、サツマイモ焼、茶話会等ではアイスクリームマシーンを使用したソフトクリーム、外食行事など、季節感や日常生活に沿えるような食事機会の提供を企画しています。入浴は、心身をリフレッシュできる大切な時間のため、アットホームな雰囲気の中で、ゆったりと湯船に浸かっていただき、月毎で変わる桜の湯やご当地の湯、リンゴ、柚子、レモンの果実を浮かせた果物の湯等をお楽しみいただいております。レクリエーションでは、精神面での賦活に加え、身体機能維持等も考慮し、手工芸や習字、集団で行う対抗レクリエーションなど“参加型”と“自立支援”を意識したメニューを提供しています。その他、麻雀、囲碁、トランプ、読書（小説・雑誌）を通じて小グループでの交流やおひとりの時間を楽しまれている利用者様が多くいらっしゃるのも当センターの特徴です。

稲寿園デイサービスセンターは、今後も札幌の地に根ざし、地域の高齢者の皆様に寄り添い、季節のイベントやレクリエーションを通して心身ともに健康に楽しくお過ごしいただけることを目指しております。ご利用者様だけでなく、ご家族の方々や地域の皆様とも連携し、共に支え合い、より良い地域社会の実現に貢献してまいります。介護や施設などについて、ご心配なことがございましたらお気軽にご連絡くださいますようお願い申し上げます。



歩行訓練



ウクレレボランティア



紫陽花の湯



まつり

【お問合せ】 札幌市稲寿園 電話：011-682-2160

札幌慈啓会総合相談室のご案内 ☎️ 0120-83-8291 お電話受付時間／8:45～17:00(土日・祝は除く)  
E-mail info-jk@sapporojikeikai.or.jp

専門スタッフが保健・医療・福祉などのご相談に応じます。

相談無料

当山のお仏像を紹介します⑬ いっこうさんぞんぶつ **一光三尊仏** ぜんこうじにょらい (善光寺如来) **我が国由来編**

玄関を入ると、はじめにお目にかかるお仏像がこちらの如来さまです（月影の間に安置しています）。前は、インドにおける伝承でした。今回は、如来さまが我が国にお越しくださってからのお話です。如来さまがインドから中国を経て日本に渡ってきた時、仏教を受容するのかもしれないのかという議論がされました。その際、ものべのもりや物部守屋という人が仏教に反対し、如来さまを難波（大阪）の堀江に投げ捨ててしまいました。その後どれくらいの時がたったのでしょうか、ある時、長野から



大阪に来ていたほんだ よしみつ わかおみのあずまんど本田善光（若麻績東人・はたのこせのたいふ秦巨勢太夫）という方が如来さまの沈んでいる水辺を通りかかりました。すると、「よしみつ、よしみつ」とどこからともなく声がします。なんと如来さまがよしみつ善光の背に飛んできました。如来



さまは「我を信濃に守り行け」とおっしゃり、昼はよしみつ善光が背におい、夜は如来さまがよしみつ善光をおんぶして信州まで行かれたと伝えられているのが、ぜんこうじにょらい善光寺如来さまです。

札幌の浄土宗寺院紹介⑤

ちようせんじ  
**長専寺**

明治24年、平岸村に観音堂を建立したことを前身とするお寺です。その後、浄土宗説教所となり、昭和12年に本堂が完成したそうです。現ご住職は、令和5年に東京は芝の増上寺においてぎょきだいえ御忌大会日中法要の唱導師をお勤めになられました。その際、新善光寺からもお檀家のみなさまと共に団体参拝させていただきました。



長専寺 札幌市豊平区平岸3条16丁目1-40

長専寺 札幌

検索

## 北縁 なんでも Q & A

いつもご質問、感想等、ご投稿いただきありがとうございます。

日頃ご供養にお参りいたしますと、「今年の夏は昨年より少しだけ過ごしやすかったですね」と言ったご意見が多かった2024年の夏でしたが、北国は短い秋を迎え、何かと「○○の秋」を楽しみ、お過ごしのことと存じます。来年はいよいよ40年ぶりに開かれる「五重相伝会」が予定されています。

このコーナーでは、「五重相伝」に関する質問も含め、引き続き皆様のご質問、ご意見を募集しております。

**Q** 先日、京都旅行に行ってきました。お寺で御朱印を頂くのに、「冥加料」というお代を払いましたが、「お布施」と何が違うのでしょうか。

**A** 「冥加料」(もしくは「冥加金」)は、仏さまから頂戴するご加護に対してお渡しをする金銭のことです。本来の意味は、知らず知らずのうちに仏さまより恩恵を受けていることを「冥加」といい、この冥加に対して仏さまにお供えるもの(金銭)を指します。この「冥加」は別称「冥利」とも言いますが、ことわざで「○○冥利に尽きる(○○に対して受ける恩恵が思っていたより多く、有難く感じる)」という言葉があるように、予想していない恩恵を受ける事を意味するものです。

これに対して「お布施」ですが、これは僧侶を通してお寺へ納める財施(金銭の施し、寄進)の事を指します。お寺は「お布施」に対して檀信徒へ「法施(仏教の教えをお伝えする行為)」を提供します。

しかし、実際は「冥加料」も御朱印の授与に対して納めたり、「永代供養」の対価としてお寺へ納める金銭であったりと、「お布施」同様、お寺の維持などに使用されるお金であることは違いません。

お寺によって「冥加料」「お布施」を使い分けている場合もありますが、金額を定めて納めていただく財施を「冥加料(金)」。金額の定めはないが、頂戴する「法施」によって、その相場の金銭を納めるのが「お布施」としていることが多い様です。

余談ですが、「お礼」と記したものを納められる方がいらっしゃいます。これは法事を勤めた僧侶への謝礼の意味だと思いますが、その場合は「仏事を勤めてもらい、仏教の教えを頂戴したお礼」という意味で「御法礼」などとすると、その意味合いも深く感じられるかもしれません。

また、ごく稀に「御霊前」「御仏前」と記載した袋でお布施を納める方がいますが、これは習俗的に本来の意味が違ってしまうので「お布施」という記載にし、納めていただくのがよろしいでしょう。

### 〈東京別院 霊源寺より〉

まだ暑さが残る9月25日に秋彼岸法要をおこないました。当日は東京にお住いの新善光寺の檀信徒や納骨堂をお使いの方や近隣の方など多くの方々が来られ、一緒にお参りをいたしました。

霊源寺では東京近郊にお住いの新善光寺の檀信徒の方々のご供養も執り行っており、先月は水戸にお住まいの方のご葬儀にも行かせていただきました。どうぞご供養に関することはお気軽にお問い合わせください。



東京別院霊源寺 横濱

### 観音様への道がキレイに!!

今号の表紙にもありますが境内の庭には、知る人ぞ知る天然石に浮き出てきた観音様がおられます。今まではゴツゴツした石があり、なかなか行きにくいとおっしゃる方もおられましたが、この度、綺麗に舗装をして滑らかに行くことができるようにしました。これを機会にぜひとも観音様へもお参りいただきますようお願い申し上げます。



### 編集後記

早いもので今年も残りわずかとなってきました。今号は十夜法要の案内と来年に迫る五重相伝の申込書もあり、盛りだくさんの内容となっております。

パッと読んでもわかりにくいところもあるかと思しますので、ぜひともお問い合わせいただけると幸いです。(真海)

※新善光寺の日々の情報は各種 SNS にて公開しております。どうぞ、そちらもご覧ください。そしてこの「ほくえん」のご感想もお待ちしております。



ホームページ YouTube

新善光寺寺報  
*Hokuen* 56  
北 縁

発行 / 2024年10月発行  
発行責任者 / 新善光寺住職 太田真琴

〒064-0806 札幌市中央区南6条西1丁目 [TEL] 011-511-0262 [FAX] 011-511-4706  
[ホームページ] <http://s-zenkoj.com> [Eメール] [s-zenkoj@crux.ocn.ne.jp](mailto:s-zenkoj@crux.ocn.ne.jp)